

# 現代中国語“这”“那”の指示内容に関する 考察—心理的な遠近概念との関与—

高 芑

## 0. はじめに

現代中国語の指示代名詞には“这”“那”及び“这个 / 那个、这样 / 那样、这么 / 那么”など“这、那”によって構成される“这”系と“那”系の二系列が存在している。指示代名詞の用法を詳しく分類すると、現場指示と文脈指示とに下位分類することができる。日本語の場合、堀口 1992 : 74 は「指示詞の用法は、現場指示・文脈指示のほかに、その根本の用法というべき観念指示、および、それらとは異質の絶対指示、この四種類に分けるべきである」と述べている。本稿では、堀口 1992 を基づき、中国語の指示代名詞を、それぞれ以下の四種類に分類し、定義する。

「現場指示」とは、基本的には、対話・講演など話し手と聞き手が同一空間を共有する場面において、指示対象が五感で認識可能な場合の指示である。

(1) a(話し手が一冊の雑誌を手で指しながら)

这本杂志在哪买的?

[この雑誌はどこで買ったんですか?]

b(記者会の会場で、前にいる話し手が記者たちに向かって)

坐在最后一排的那位同志，请!

[いちばん後ろの方、どうぞ!]

例えば、例 (1a) のように話し手から近いところにある雑誌を指すとき、“这”を用い、例 (1b) のように発話者から離れているところにい

## 2 高 芑

る人を指示するとき、“那”を用いる。つまり、「現場指示」では、指示対象と話し手との空間的な隔たりの相違によって、異なる指示代名詞を用いるのである。

「文脈指示」とは、指示対象が文脈の中に存在する場合の指示である。すなわち先行詞がコンテキストの中に存在する場合である。

### (2) A: 昨天你背的兜子，挺别致的！

[昨日持っていたバッグ、素敵だったね。]

B: 那个 / \*这个兜子是我老公从国外给我带回来的。

[あれは旦那が海外から買ってきてくれたの。]

例(2)において、指示対象の「Bが昨日持っていたバッグ」は発話の場にはないため、現場指示の使用条件に満たさないのである。従って、“那个”は“这个”に置き換えることができない。“那个”は先行する文脈に表れる“昨天你背的兜子”を指しており、指示対象が言語的文脈の中で同定される指示に相当するものである。

「観念指示」には、発話者が知覚している事物を対象として発話するものと、発話者が観念の中に思い浮かべる事物を対象として発話するものと二つある。前者は、知覚可能な事物のみを対象とするが、後者は、知覚可能な事物にとどまらず、知覚不可能なものをも対象とする。

### (3)a(数日前甲は乙に「会社の年末報告を書いてくれ」と頼まれた。)

乙: 那个 / \*这个报告写完了吗？

[あのレポートは書き終わりましたか。]

甲: 快了。

[もうすぐですよ。]

b(祖父が孫に自分が若いときの話をしている)

那 / ? 这个时候，大家的生活都很苦，谁都吃不饱饭。

[あのとき、みんなの生活は大変だった。誰も腹いっぱい食べることができなかった。]

例(3a)において数日前乙が甲に年末報告を頼んだ。その依頼事実は乙と甲の両者にとって明瞭なことである。発話時に乙が甲の記憶を喚起

するため、指示対象の“報告”を指示代名詞“那”で導いている。具体的なレポートは甲乙両者の観念の中に存在し、文脈の中には現れていないため、“这”で指示することはできない。例(3b)において、話し手(祖父)の観念に過去のコトガラを思い出しながら、はっきりしない過去の時間を指示代名詞“那”を用い、孫に語ろうとしている。このような指示代名詞の用法を「観念指示」と呼ぶ。観念指示の用法は、指示対象の実態を他に示さないという点において、現場指示・文脈指示の用法とは異質である。

次に、堀口 1992 : 89 で定義されている「絶対指示」とは、場所及び時間に関して「ココ・コチラ／コレマデ・コレカラ」などの近称で、常に発話者が存在する場所、或いは発話者の存在するときを絶対的に表わすものである。

また、牧野 1993 はテキストとの関わりの観点から指示代名詞の用法について、「いわゆる現場指示であっても、**deixis** (現場指示) と **anaphora** (文脈指示) はともに見られる。」と述べている。つまり、指示代名詞の指示対象の同定が、発話が行われる場・テキストのいずれもとの関連においてなされているのである。

丁树声 1961 : 150 は“这”“那”の使用分布について、指示対象が「近い」と認識される場合“这”を用い、「遠い」と認識される場合、“那”を用いると述べている。つまり、指示代名詞“这”“那”は「遠近」という概念と密接に関わっていること。例(1)のような現場指示から派生して、時間軸における「遠近」も“这”“那”で示すことができる。丁 2003 : 29 は「時間的に近い、或いは発話時に近いうちに行われたコトガラを指すとき、‘这时’、‘这个时候’、‘这’を用いる。…時間的に遠いというのは未来でもあり、過去でもある。通常‘那’、‘那时’などを用いる。…過去、或いは未来の時間には‘那’を用い、過去・未来に行われるコトガラ及び知り合った人には‘那…’で指示する。」と述べている<sup>2)</sup>。しかし、次の例を見てみよう。

- (4) 当林震从院里的垂柳上摘下一颗多汁的嫩芽时，他稍微有点惆怅，因为春天来得那么快，而他，却没有做出什么有意义的事情来迎接这个美妙的季节……

## 《组织部来了个年青人》

[林震が庭のシダレ柳からみずみずしい新芽を摘んだ瞬間、彼は何となく寂しい気持ちになった。春がこんなに早く訪れ、有意義なことを何もしないままに、この素晴らしい季節を迎えることになってしまったからだ。]

林震が摘んだ葉が水気の多い新芽であることから、例(4)における季節は明らかに春、すなわち現在であると判断できる。時間的な距離から言えば、「近」であるにもかかわらず、遠称の指示代名詞“那”を用いており、時間的な距離以外の要素も関与していると考えられる。本稿は、先に挙げた「現場指示」、「文脈指示」、「観念指示」を取り上げ、指示対象の同定に対する心理的概念の関与について考察する。

## 1. 知覚による指示用法

江天 1980 は“这”は主として身のまわりから遠くない、或いは今発声したばかりの、また、言ったばかりの事物を指示するのに用いる。“那”は主として身の回りにない、あるいは以前発生した事物を指示するのに用いる。」<sup>3)</sup>と身の回りにあるか否かという対立としてとらえた。一方、梁 1986 は「『身のまわりがない』ものを指示する時、“这”を用いられる例が少なくない」と指摘している。そして、事例を挙げながら、「指示対象が話し手と聞き手との共通理解のものであれば、身の回りにないにもかかわらず“这”が用いられるのである。発話者が強い関心を持っていて指示するものを聞き手が理解してくれれば、一種の親しい感じが生じ、「親」であれば、自然に「近」と感じられるからである。」と述べている。

(5) 吴芝生他们回头去看时，那两个穿黑大衫的汉子已经不见了，(中略)红色汽车也开走了。喇叭声怪难听。“这就是预备捉人的汽车！”

## 《子夜》

[吴芝生たちが振り返ってみた時は、先ほどの黒服の二人はすでにいなくなり、(中略)赤い車も動き出していた。警笛の音がひどく耳障りだ。「あれが護送車ですよ。」]

(梁慧 1986:12(4))

例(5)において、空間的な距離からいえば、“那”で指すこともできるが、この場合、指示対象(赤い車)が話し手と聞き手と共通理解のものであるため、“这”が優先されると梁慧は指摘している。しかし、次の例を見てみよう。

(甲と乙の二人が部屋の中にいると、部屋の外で物が落ちたような大きな音がした。甲は乙に尋ねる。)

(6) 甲：这是什么声音？

[あれは何の音？]

乙：不知道。

[わからない。]

甲と乙が部屋の中にいたので、物が実際に落ちた現場を誰も見てはいない。部屋の外から聞こえた音(物が落ちたとき立った大きな音)は、部屋の中にいる人がそれによって音自体の存在を認識することができるため、中国語では近称の“这”を用いている。例(5)において、車がすでに走り去った後で、指示対象の車自体がその場にはないのは事実であるが、発話時点において耳障りなクラクションの音(“喇叭声怪难听”)が聞こえることから、車が遠く離れていない、ある意味ではクラクションの音によって、車を実際の存在物として確認できるため、「近」と認識し、“那”より“这”のほうが優先される、と考えられる。

## 2. 話題となっている対象の指示

指示代名詞の空間性から意味が派生して、“这”“那”に話し手と聞き手との間の心理的距離が現れていることはすでに指摘されている。上條 1985 は、“这·那”と「コ・ソ・ア」の対応について、遠くに見える指示対象を指して言う場合、心理的に近いと感じられれば、近称の“这”を用いるとしている。すなわち、物理的距離より心理的な要素が優先されるということがいえよう。上條 1985: 5 はさらに、「中国語では自分が強く意識した場合には“这”でいうことがあるという例である。」と述べ、次の例を挙げている。

(7) 胆子不小啊！这些女戏子，如今也无法无天了。

## 《舞台姐妹》

[たいした度胸だ。あの女芸人ども。今じゃやりたい放題じゃないか。]

しかし、讚井 1988 : 10 は「指示代名詞の先行詞が話し手によって提示されたばかりである時には“这”を使い、比較的以前すでに聞き手に紹介されている場合には、“那”を使わなければならない。」と述べている。例(7)の場合は、女芸人たちが禁止されている演目を上演しようとするのを聞いたあとの支配人唐の発話である。指示対象の女芸人は発話時点に存在しないため、現場指示としては扱い難い。例(7)では、発話以前に女芸人の行為が話題となっているが、話題となっている指示対象を再び指示する場合、現代中国語では近称の“这”を用いる傾向にある。従って、例(3b)において、仮に祖父が思い出を語っているうちに、再び孫の関心を引き寄せようとする場合、指示代名詞“这个”が用いられるのである。

また、次の例を見てみよう。

(8) 而且大夫笑着告诉他们 在英国多吃点牛肉，身体还要更好；这次欧战，英国能把德国打败，就是英国兵天天吃牛肉的缘故。

## 《二马》

[医者<sup>が</sup>また笑って言った。「イギリスではたくさん牛肉を食べれば、体がさらに丈夫になると言われています。今度のヨーロッパの戦争で、イギリスがドイツに勝ったのは、イギリス兵が毎日牛肉を食べていたからなんですよ。」]

例(8)は馬親子(“他们”)が空港で入国審査をしている場面である。戦争についての話は前後の文脈に現れていないため、“这次欧战”の“这次”は観念指示である。観念指示の場合、通常“那”を用いるが、ここでは“这”が用いられている。望月 1981 : 197 は「場所的に遠いか近いかの絶対的基準はないし、また時間的にも、現在のことは“这”、過去、未来のことは原則として“那”であるが、過去だから必ず“那”を使うとはかぎらない。たとえば“这个暑假，你在哪里过的？”(この夏はどこで過ごしたのですか。)のような例文はそうである。つまり観

念的なものが優先するのである。」と指摘している。観念対象指示の用法は、現に観念に存在している事物を指示対象とする。しかし、例(8)の場合、戦争の話が常に発話者の観念に存在しているとは断言できない。ここでは、観念的なものが優先するというよりはむしろ、話し手が新しい話題“这次欧战”を自分にひきつけて話しているようなニュアンスや、談話主題として捉えるといったような効果が生まれる。“这”系の語には新たに話の主題を設ける働きがある。「牛肉をたくさん食べたほうが体にいい」と聞き手を説得するため、聞き手の記憶の中にある過去に行われた戦争のことを引き出そうとする医者の方の意図が、近称の“这”を用いることにより表出されていると考えられる。

### 3. 空間的、時間的な客観性

“这”“那”を使い分けの基本は空間的な距離の差であるが、時間的な距離の差によっても、“这”“那”は使い分けられる。次の例を見よう。

(9) A: 妈, 明早 5 点钟叫我起来!

[お母さん、明日朝 5 時に起こしてね。]

B: 啊? 起那么早干什么?

[えっ? そんなに早く起きて何するの?]

A: 老师要求 6 点钟准时在校门前集合。

[先生が六時に校門の前に集合しなさいと言っていたもの。]

(10) A: 您预定的商品要下个月一号才能到货。

[ご注文していただいた商品は来月の一日に入荷する予定ですが。]

B: 下个月一号? 怎么要等那么长时间呢!

[来月の一日? 何でそんな長い間待たされるの?]

例(9)、例(10)において、“那么”が用いられたのは、いずれも発話時点からコトガラが行われるまで(例(9)は明日の朝まで、例(10)は来月一日まで)の客観的な待つ時間が長いと判断したからである。次の表現例もそうである。

(11) “你怎么这么早就回来啦？”温都太太问。

“我忘了说啦，妈！我不放心你，早晨你摔了那么一下子，我还得赶紧回去！你好了吧，妈？”

《二马》

[「あれ、何でこんな早く帰ってきたの？」と温都おばさんが聞いた。「言い忘れちゃった。お母さん。お母さんのことを心配していたのよ。朝転んでいたじゃない。まあ、でも私今からすぐ帰らなくちゃ。もう大丈夫よね、お母さん？…」]

例(11)は、話し手(温都おばさん)と聞き手(帰ってきた娘)が同一空間に共存しており、ともに現在の時点に属するため、温都おばさんは“你怎么这么早就回来啦?”(何でこんな早く帰ってきたの?)と“这么”を用いて娘に聞いている。そして、温都おばさんの問いに対し、娘が“我不放心你，早晨你摔了那么一下子”(心配していたのよ、朝転んでいたから)と答えている。温都おばさんが転んだのは朝であり、過去のことであるため、“那”を用いているのである。

以上の例から、コトガラに対する客観的な時間の概念が指示代名詞“这”“那”の選択を左右することがわかる。

#### 4. 主観性の関与

丁启阵 2003: 29 は指示代名詞“这”“那”は客観的な時間的遠近により使い分けがなされると指摘している。また、林祥媚 1987 は「指示というのは、実は区別と指示の二つの機能を有する、…指示対象の性状、方式、行動、程度、数量などを指示する。性状、方式などは通常事物(指示対象)に付着している。指示対象が身の回りにある、或いは言及されたばかり、或いはごく最近のできごとであれば、‘这’を用いる。それに反し、身の回りにない、或いは以前にあった事物であれば、‘那’を用いる。」<sup>4)</sup>と記述している。そして、木村 1992 も“那年”(あの年)、“那时”(あの時)、“那次”(あのたび)などの指示表現は、単に述べられている出来事が<過去>に属するものであることを示すテンスの一標識に過ぎないと指摘している。しかし、例(2)のように、指示代名詞の用法は客観的な時間的遠近の原則に当てはまらな

い場合がある。次の例文を見てみよう。

- (12)他自己闲着在街上溜达,看着男女老少都那么忙,心中有点难过  
“我要是在中国多么好!过年的时候,咱也是这么忙!”

《二马》

[彼は一人で町をぶらぶらして、老若男女がみんなあんなに忙しそうにしている様子を見ていたら、少し悲しくなってきた。「中国にいたとしたら、どんなにいいだろう。お正月には、私たちもこんなふうに忙しいだろう。」]

例(12)において、彼はお正月一人で町をぶらぶらしながら、みんなが忙しい様子を見ている。客観的な時間概念から見れば、現在であるため、“那么”を“这么”に置き換えることができる。しかも、彼はみんなの忙しそうにしている様子を目の前にしているため、「現場指示」の用法からといても“这么”のほうがふさわしいと考えられる。しかし、原文では“那么”を用いている。これには、客観的な時間的遠近の要素だけでなく、話し手の感情が関与していることが考えられる。つまり、外国にいる一人ぼっちの彼にとって、身近にいる外国の人々は遠くの存在として感じられる。従って、“那么”が用いられるのである。一方、“咱也是这么忙”(私たちもこんなふうに忙しい)の“这么”を“那么”に置き換えることはできない。彼は外国にいるにもかかわらず、中国ではみんながお正月のためにいろいろ忙しいということは中国人の彼にとって「われの領域」、すなわち自分の領域に属しているコトガラであるからである。

しからは、自分の領域に属するコトガラであれば、すべて近称の“这”を用いるのかというと、必ずしもそうとは限らない。

- (13) 后来我离开了家,离开了那条胡同,忘记了那扇窗。……离开几十年后我们那么快地老了,离职修养回到家,回到我们的城市仅存的面貌依然的小胡同来了。我找到那间具有临街的窗的房子了。窗已经堵死了,只有像我这样的老居民,才能依稀分辨出窗的遗迹,……行人稠密,儿童欢笑,还常常有汽车经过这里……

## 《临街的窗》

[そのあと、私は家を後にし、あの「胡同」を離れ、あの窓を忘れてしまった。…数十年が経ち、私たちはこんなにも早く年をとってしまった。定年後、故郷の昔のままの姿を残した「胡同」に戻ってきた。そして、私は窓が通りに面したあの家を見つけた。窓はすでに塞がれており、私のような古い住民しかあの窓の遺跡を見分けることができないだろう…往来の人が多く、子供たちが騒いでいる。車もよくここを通る…]

例(13)において、一人称“我”と一人称複数の“我们”から、コトガラが「われの領域」に属していると判断できる。しかも重複指示の場合、一人称二人称は“那”で同定することができない原則<sup>5)</sup>に従って、“这”（“像我这样的老居民”）を用いている。しかし、「“胡同”に戻ってきた」「車もよくここを通る」の文脈から例(13)で述べているのは現在のことであることは明らかであるにもかかわらず、“我们那么快地老了”では、“那么”が用いられている。“那么”を“这么”に置き換えることもできるが、“那么”を用いることにより、年をとるのが“我们”にとって望ましくない(意識的に遠くの存在として認識すること)というニュアンスが表わされる。

次の例を見てみよう。

- (14) 在这里永远不会有喧闹和嘈杂，从繁华的都市中逃亡出来的我仿佛掐脱了一种束缚，第一次与大自然离得那么近，陌生而又亲密……青春的岁月总是一如梦境般的绚丽，我原先来时空空的行囊此刻却载满了各种各样的礼物还有无尽的依恋。

## 《玻璃心的日子》

[ここには永遠に喧騒は訪れない。繁盛な町から逃げ出した私は束縛から解放されたようだ。はじめて大自然にこんなにも近づいた。それはよそよそしくもあり、又親密でもあった…青春の歳月はいつも夢のように美しい。最初に来たときには空っぽだったカバンの中が今は様々なプレゼントや溢れ出るほどの懐かしい気持ちでいっぱいになった。]

例(14)の場合、“在这里”(ここには)という場所設定をしているのに、“第一次与大自然离得那么近”と遠称“那么”を用いている。客観的な時間の遠近から見れば、“这么”を用いたほうが適当であるように思えるが、“那么”のほうがさらに文脈にふさわしい。賑やかな町から逃げ出して、大自然に近づくことによって、発話者(“我”)はもとの生活のよさも分かってきた。それは“青春的岁月总是一如梦境般的绚丽”(青春の歳月はいつも夢のように美しい)から分かる。もとの生活(青春時代)は過去のことであり、それに対していまは懐かしい気持ちでいっぱいである。発話者は大自然の“这里”(ここ)にいるとしても、過去に未練があるため、心理的には“这里”から離れているのである。従って、遠称の“那么”が近称の“这么”より優先されているのである。

以上の分析から、指示代名詞の物理的な空間の遠近によって現れている時間性は、先行研究に見られる客観性のほかに、発話者の主観性にも大きく関わっていることが分かる。

## 5. まとめ

指示代名詞における「遠近」という概念は、そもそも空間的な距離(物理的な距離)から生じたものであるため、客観性を持っている。従って、空間的な遠近から転じて時間的な遠近を表わす指示代名詞も、このような客観性を持っていると考えられる。しかし、指示代名詞の使用がすべて客観的な遠近に従うとは限らない。本稿の表現例から、指示代名詞の物理的な空間の遠近によって表わされる時間性は、従来指摘されている客観性のほかに、発話者の主観性とも大きく関わっていることが分かる。話し手にとって望ましくないこと、また心理的に疎遠と感じているコトガラについては、心理的な距離の遠称として“那”が用いられるのである。発話者のコトガラに対する判断や認識などが指示代名詞の選択には大きな影響を与えているとすることができよう。

## 注

- 1 堀口 1992 : 80 を参照。
- 2 時間に関する“这”“那”について、丁树声 1961:54 “‘这会儿、那会儿’是时间词，‘这会儿’就是这个时候，通常指现在，但是也可以指过去某一

这个时候,很少指未来。‘那会儿’可以指过去,也可以指未来,不能指现在。”  
と述べている。

3 江天 1980: 8 参照。

4 林祥楣 1987: 44 参照。

“所谓指示,实际上包括区别和指点两种作用,……指性状、方式、行动、程度、数量。性状等总是附丽于事物的,这些事物如近在身边,或是刚刚说过,或是新近才有的用‘这’,相反的,这些事物不在身边或以前有过的用‘那’。”

5 沈家煊 1999: 167 を参照。

また、邹韶华 2001: 59 は人称代名詞と指示代名詞の関係について、次のように述べている。

“这”“那”与人称的关系,第一、第二人称只能与“这”不能与“那”构成同位关系,第三人称除外。如

我这个人 \*我那个人

你这个人 \*你那个人

他这个人 他那个人

### 参考文献

江天 1980《现代汉语语法通解》辽宁人民出版社

梁慧 1986『『コ・ソ・ア』と『这・那』—日本語・中国語の比較対照研究—』  
『都立大学方言学会会報』No. 116

丁启阵 2003<现代汉语“这”、“那”的语法分布>《世界汉语教学》第2期

丁树声等 1961《现代汉语语法讲话》商务印书馆(1999)

林祥楣 1987<代词>《汉语知识讲话3》合订本上海教育出版社(1991)

神尾昭雄 1992『情報のなわばり理論』大修館書店

石井誠 1998「日中対照指示詞の研究」『国文学 解釈と鑑賞』第63卷1号至  
文堂

讚井唯允 1988「中国語指示代名詞の語用論的再検討」『人文学報』(東京都  
立大学) Vol.198

上條厚 1985「日本語と中国語の指示詞の対応—現場指示を中心に」『ことば  
の研究 四』(長野県ことばの会)(『中国関係論説資料 27-2 下』所収)

木村英樹 1992「中国語指示詞の『遠近』対立について—『コソア』との対

- 照を兼ねて」『日本語と中国語の対照研究（上）』くろしお出版  
堀口和吉 1992「指示語の表現性」『日本語研究資料集』第1期第7巻Ⅰひつじ書房  
牧野美奈子 1993「中国語の指示詞とテキスト」『中国語学』240号  
望月十八吉 1981『中国語研究学習双13 中国語と日本語』光生館

### 例文の出典

老舍 《二馬》

王蒙 《组织部里来了个年轻人》《临街的窗》

董懿娜 《玻璃心的日子》

（以上『百歩穿楊』（CD-ROM）よりの検索）

出典を記していないものは作例である。







